

陳情番号	151
付託先委員会	総務文教委員会
審査結果等	

浜田市議会議長様

石見神楽伝承について課題の整理と目指すゴールの設定・公表について検討を求める陳情

浜田市では日本遺産に指定された石見神楽の保存伝承のため、用具整備に必要な費用を補助する事業を令和2年から行っています。これにより、複数の社中が衣装や幕、太鼓といった備品の購入に対し補助を受け、伝承に役立っていると思います。しかし、この石見神楽の伝承、維持存続については、課題や目指すべき状態、ゴールがはっきりと整理されていないように思います。

たとえば、私の住む地域の宮では、毎年例大祭で夜通し神楽を奉納して下さっていた社中が、「舞手が減って、朝までは厳しい」との理由で時間の短縮が行われています。地域ごとの宮の例大祭での神楽の奉納は、昔から氏子組織＝地域住民の行事として行われており、地域住民がさまざまな準備や当日の作業、片付け等を一緒に行うことで、構成世帯同士の結束を強めてきたという歴史があり、こうした地域の宮での奉納神楽こそが石見神楽の文化そのものであると思います。子供達にとっても、この日だけは夜ふかしをしても怒られない特別な一日ということで、私の子も含め浜田で育った多くの方は、神楽の声、音、映像をはっきりと記憶していると思います。

神楽の音を聞いただけでその記憶が蘇るなど、「自分たちにとっての浜田の良い記憶、楽しい記憶」を浜田出身者が持ち、そうした例大祭等での奉納がずっと続いていることは、市外県外へ転出した若者にとっても、「またあの空気を体験したい」、「浜田に帰って来たい」という動機につながっており、市が政策として取り組むか否かに関わらず、非常に有効なふるさと郷育が続けられてきたと言えます。

浜田市では石見神楽を観光資源としても活用しようとしており、市外県外からの来客があるような様々なイベントで積極的に上演を行い、認知度を高めようとしています。観光客等の市外県外在住者が石見神楽の魅力を知ることと、そうした方に向けた上演の場を確保することで、浜田市へ来訪するリピート率が高まる可能性はあります。

しかし、石見神楽という文化を保存継承していくとはどういうことなのか、これまで市としてはっきりとゴールを示されていません。例えば、現在いくつある社中を10年後にいくつ、20年後にいくつ残っているように維持しようとか、観光客に見てもらふことを目的にした上演を市が費用負担して行うことにより、どのくらいの方が浜田を訪れ、見込まれる経済効果がどうなのかを試算して公表するといった、検証可能な数値目標を伴った具体的な議論や施策・事業の設計が必要ではないでしょうか。費用対効果が低い場合、住民にメリットが少ない観光客向け定期上演のための施設整備は必要がないという結論になる可能性もあります。

本来の神楽社中の目的は、各地域の宮での例大祭等で神様に舞を奉納することではないかと思っています。決して観光客を楽しませることや、演劇団のように上演して上演

料をもらい、構成員に報酬を支払うことで組織を維持運営することではないはずです。「舞手が減って演目も制限がでてくる」「社中の存続も難しくなっていく」といった課題もある中で、神楽伝承館といったハコモノを作り、観光客相手の上演の場を作ることがその課題解決に必要なのか、市民の多くが疑問を持っていると思います。

石見神楽という文化を伝承することが目的なのであれば、ハコモノを作るのではなく、人口減少に伴って当然起こる舞手の減少も考慮して、例えば社中の合併や舞手の流動化促進といった手段も選択肢に入れることで、一定数の舞手、社中を維持し、市全体としてこれまで各地域の宮で行われてきた神楽の奉納という本来の文化を維持していくといった検討を行う必要があるのではないのでしょうか。

現在でも、アクアス、三宮神社、各種のイベント等で、多くの社中の協力のもと、石見神楽が定期的に上演されることで観光客や市外県外からの来訪者に認知されるという目的が果たされる場は確保されています。現在三つ桜酒造跡地も候補に入れて検討されている神楽伝承館といった施設に、さらに新たに常設舞台を設け、観光客向けに定期上演する場所を増やす必要があると考えるならば、それによって得られると見込む検証可能な効果も、数値目標として示さなければ、「予算を使うけれど求める効果は示さず、費用対効果の検証も行われぬ」といったこれまでに多く行われているやり方のまま、「結局は無駄なハコモノが増え、将来にわたる大きな負担は決めた人ではなく住民が担っていく」ということが繰り返されることになりかねません。

石見神楽伝承について、5年後10年後20年後、どのような状態であれば伝承が上手くいっていると考えなのか、そのために本当に必要なことは何なのか、課題の整理と目指すゴールの設定や公表について検討されるよう、執行部に働きかけて下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

2024年6月3日

浜田市国分町

三島 淳寛

